

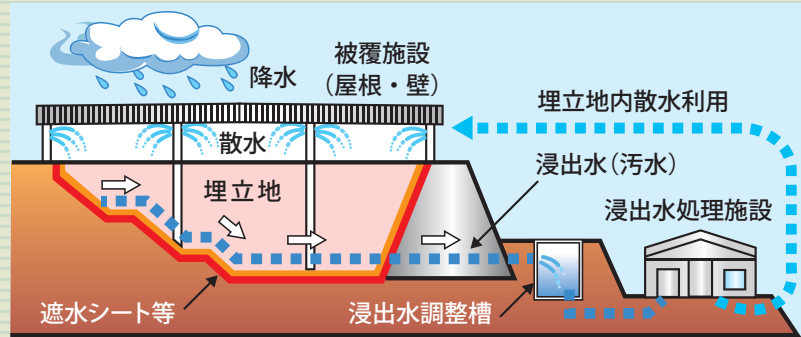
Green Life なかがわ

グリーン・ライフ
～快適で安全な暮らしのために～

3 埋立方式について

・馬頭最終処分場の新たな埋立方式は、クローズド型(屋根付き)で整備

クローズド型のイメージ図



〈クローズド型の特徴〉

- ・散水をコントロールし浸出水を無放流
 - ・処分場内と外界との分離 (雨、風、悪臭、騒音など)
 - ・浸出水処理施設の規模 小
- ↓
- 最終処分場の安全性の更なる向上
 - 地域の安心への配慮
 - 維持管理を含めたトータルコストの低減 等

4 施設配置について

- ・搬入道路の出入口は、町道備中沢線を利用。ルートは、事業区域南東部を選定
- ・関連施設は、埋立地の南側に、地形を有効に活用し効率的な配置を行う。
- ・備中沢西側は、環境保全エリアとして、自然環境を保全した活用を検討していく。

●委員からの主な意見等

- ・クローズド型になるので、柱部分と遮水シートとの接続部の設計・施工に注意
- ・クローズド型は、埋立地が外から見えないため、適切な情報公開に努めること。
- ・処分場として改変しない備中沢西側の利用方法についても、検討すると良い。
- ・埋立位置は、前回調査で貴重種が少ない場所であったが、さらに十分調査すること。

●県の対応

- ・委員の意見を踏まえ、埋立地や被覆施設の構造、遮水や浸出水の処理方法等の設計を進める。
- ・環境影響評価についても、今回の位置や配置を考慮し、適正な現況調査を行っていく。

地元の皆様には、各施設の設計を行い基本設計(案)がまとまる段階で、御説明し、御意見を伺ってまいります。

●北沢地区不法投棄物の量について寄せられた御質問にお答えします。

平成12年に実施した不法投棄物詳細調査結果から、不法投棄物の量は約31,000m³で、掘削後の容積増加率を考慮すると、撤去量は約45,000m³と推定されます。

さらに、周辺汚染土壌約5,700m³をあわせ、撤去が必要な総量は約51,000m³と推定されます。

お問い合わせ先

- 栃木県 環境森林部 馬頭処分場整備室 TEL.028-623-3227 FAX.028-623-3182
e-mail : bato@pref.tochigi.lg.jp
- 那珂川 分室 TEL.0287-92-1411 FAX.0287-92-1416
- 那珂川町 環境総合推進室 TEL.0287-92-1110 FAX.0287-92-3699

発行

- 栃木県 環境森林部 馬頭処分場整備室 〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20 TEL.028-623-3227
【栃木県ホームページ】 <http://www.pref.tochigi.lg.jp/> [⇒暮らし・環境 ⇒ 廃棄物 ⇒ 県営処分場]

(平成26年2月発行)



安全で安心な処分場の整備に向けて

馬頭最終処分場建設検討委員会について御紹介します。



馬頭最終処分場建設検討委員会

開催報告

栃木県では、全国モデルとなるような安全で安心な処分場の建設に向けて、大学教授等の学識経験者で構成された建設検討委員会を設置し、意見や助言をいただきながら、基本設計や環境影響評価を進めています。

今号では、当委員会について、御紹介します。



馬頭最終処分場建設検討委員会について

- 目的 / 馬頭最終処分場の建設を進めるに当たり、設計及び環境影響評価等について、専門的見地からアドバイスを得るために設置
- 委員 / 8名
- 委員長 / 柿井 一男 宇都宮大学大学院 教授
- 開催回数 / 全6回予定
- 開催形式 / 公開 (傍聴定員 10名)

馬頭最終処分場建設検討委員会委員名簿

	氏名	役職名	専門分野
1	青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 教授	植物
2	伊藤 勝	江戸川大学社会学部 教授	アセスメント全般
3	柿井 一男	宇都宮大学大学院 教授	水質 (水処理)
4	小金澤正昭	宇都宮大学農学部 教授	動物
5	小峯 秀雄	茨城大学工学部 教授	地盤工学
6	長尾 昌朋	足利工業大学工学部 教授	水質 (水象)
7	藤吉 秀昭	(一財)日本環境衛生センター 常務理事	廃棄物工学
8	堀 昭夫	小山工業高等専門学校 教授	建築

(50音順、敬称略)

第1回 建設検討委員会

第1回委員会では、委員長選出に続き、今後の基本設計等の進め方などについて、各委員から御意見をいただきました。

- 開催日 / 平成25年10月21日(月)
- 議題 / (1) 馬頭最終処分場整備に係る主な経緯について
(2) 事業区域の概況について
(3) 今後の進め方について (基本設計、環境影響評価)

● 委員からの主な意見等

- ・ 処分場に関する新たな情報や埋立手法の事例等を調べることが有効である。
- ・ 植物や鳥類の調査については、過去の調査地点と比較できる位置を選定すると良い。
- ・ ほ乳類の調査については、センサーカメラの活用が有効と考える。

● 県の対応

- ・ 埋立方式については、オープン型のほか、クローズド型 (屋根付き) も比較検討する。
- ・ 環境影響評価実施計画書については、委員からの意見を踏まえ、調査内容を拡充する。

第2回 建設検討委員会

第2回委員会では、処分場建設を進める上で骨格となる埋立位置、埋立容量等について、各委員から御意見をいただきました。

- 開催日 / 平成26年2月12日(水)
- 議題 / (1) 埋立位置について
(2) 埋立容量について
(3) 埋立方式について
(4) 施設配置について (搬入道路、関連施設等)

1 埋立位置について

- ・ 右図のとおり、備中沢東側の最も広い谷を埋立地として選定

2 埋立容量について

- ・ 埋立容量は、約60万m³

馬頭最終処分場 事業区域と埋立地の選定

